

2018年12月

## お二人へのアドバイス

公益財団法人 国際通貨研究所  
名誉顧問 行天豊雄

米中貿易戦争に対して世界中から非難の声が沸き上がっている。恣意的な高関税によってサプライ・チェーンが混乱し、投資・貿易の流れが寸断される。輸入品価格上昇の結果、実質貿易は縮小する。成長は鈍化し、折角回復期にある世界経済は停滞してしまう。さなきだに、米国経済の一強を背景に FED が利上げを続けるからドル高が進み、途上国通貨安と資本流出が心配されていた。そこへ持って来ての貿易戦争だから不安の声が上るのも無理はない。

貿易戦争に勝者はないから何処かでディールが成立するだろうという楽観論もあるが、昨今の米中対立は単なる貿易紛争ではなく、いわば世界における覇権を賭けた両大国の闘いであり、トランプと習近平という指導者が正にそういう認識を誰よりも強く持っていることを考えると、この問題は決して簡単には片付かないだろうと思う。しかし、両大国の競合が武力闘争にでもなればそれは即ち人類の破滅であることは明らかであるし、その観点から両大国の競合を何としてでもホット・ウォーにしないでコールド・ウォーに止めておく必要があるのは、両大国のみならず全世界にとっても当然のことである。

両大国に何かの行動を強制する力を持った国も機関も存在しない。われわれにできるのは、またわれわれがなすべきなのは、両大国が、中長期的観点からは、そのような行動をとったほうが有利だと納得できるような理性的な選択肢を提示することではないか。

まず習近平から始めよう。私が伝えたいのは、「焦ってはいけない」という言葉だ。2000年のWTO加盟の頃迄、中国は鄧小平の教えを守って韜光養晦の道を歩んだ。世界に覇を求めず、国内の改革と発展に専念したのである。ところが、二十一世紀に入って、ITバブルが崩壊し、9・11テロが起り、米国の威信が大きく揺らいだ。リーマン・ショックはいわば極め付きの出来事で、「米国恐るるに足らず」という威勢の良い風潮が生まれた。習近平は正にこの流れの申し子なのである。偉大な中国の復活、米国一極支配への挑戦が新しい国家的スローガンになった。

しかし、中国は焦ってはいけない。中国は強大にはなったが、米国との距離はまだまだ

だ遠いのである。しかも米国との対立激化で国内の改革・発展が足踏みしていることを考えると、今後十年、二十年後の中国には 1980 年代のソ連と共通したリスクがあることを無視できない。中国は韜光養晦に戻るべきである。

トランプへの忠告は「偉大なアメリカ復活」に必要なのは軍事力、経済力だけでなく、自由と民主主義の理想を掲げて団結したアメリカ社会なのだということだ。アメリカは人種の坩堝であり、絶えず異種のものの中で作用と反作用が続いている。しかし坩堝が健在であるためには、建国以来の理想を守るという暗黙の国民的合意が必要である。そしてその合意の存在こそが、他の国々とくに中国のような理念を重視しない国に対するアメリカの強味なのである。トランプ流のすべての課題を数字で勝負が判断できる取引に仕組み直したり、単純な敵味方に仕分けるやり方は、結局自らの強みを捨てることになる。世界に自負できる理想の下で団結したアメリカ社会を再生し維持することこそがアメリカの指導者に課された喫緊の責務だと思う。

二人がこの忠告を聞いてくれれば、少々ともあと二十年位は米中間には競争的共存が実現する筈なんだが。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2018 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>